



菊鹿町には、熊本県最古の石橋を造った石工集団がいた...

# 石工・仁平

## 熊本におけるアーチ式石橋の祖 「石工・仁平」

熊本県最古の石橋「日渡洞口橋」(ひわたしとうぐうばし)は、山鹿市菊鹿町下内田地区にあり、地元の石工・仁平が、安永3年(1774)に架けたリブアーチ式(輪石を縦に並べる方法)の石橋。後に、南阿蘇村(旧長陽村)に架橋する黒川眼鏡橋(洪水で流出)の試作的な意味で造られたといわれている。この洞口橋は平成4年(1992)の大雨で流されたが、地元の人たちの手によって復元保存されている。すぐ脇の川には当時架けられていた跡を見ることができ、また、その向かいには、石橋に使用する石を切り出した跡もある。

石工・仁平は、豊後国日田郡津江出身で、長崎で石橋の技術を習得したとされる。この仁平の流れを汲む石工グループが手掛けた石橋に、熊本市北区植木町の「豊岡眼鏡橋」がある。洞口橋と同じく輪石に石の楔が施されているのが特徴。同様の工法が見られる「井口眼鏡橋」(菊陽町)、「門前川眼鏡橋」(御船町)なども、仁平グループによる架橋ではないかと推測されている。



石を切り出した跡



洞口橋に見られる楔石の跡

仁平は、石橋以外にも、山鹿市に数々の石造物を残している。鳥居や地藏尊、宝篋印塔など様々で、特に印象的なものは

松尾神社(「松尾神社」の章参照)の仁王像。仁王らしからぬ愛嬌ある姿は、逆に魅力溢れる存在でもある。緻密な計算と高度な技術を要した石橋を造った印象とはまた違った作品に、仁平の人柄を垣間見ることができる。これは地藏尊の表情にも見て取ることができる。

菊鹿市民センター裏手には「仁平の墓」がある。ひと際目立つその立派なお墓は、いかに仁平が偉大な功績を残し、人望が厚かったかが分かる。熊本県石橋の祖が手がけた石造物は、今も地域の人々により、大切に受け継がれている。



仁平の墓

### 石工・仁平ギャラリー



山ノ井地藏



高橋八幡宮の猿田彦大神碑



日渡洞口橋



鷹取神社の鳥居



金剛乗寺(豊前街道沿い)の宝篋印塔



松尾神社の仁王像



### 永い歴史の語り部

#### 「石造物」の魅力に触れる

古くより人々は石を使って、様々なものを生み出してきた。その時代の石造物は、現代の私たちに、何かを伝えてくれている。

その中で、「川西の宝篋印塔」は、正和三年(1314)に建立された供養塔。上部が崩れているが、復元すれば全国1、2を争う巨大塔と言われている。

また石造物ではないが、「宮原菜葉野(ぐみの)の弁財天」には、「カサネ石」とも呼ばれる巨石が、神体として祀られている。



宮原弁財天



川西の宝篋印塔